

2027年3月期 中間期決算補足説明資料

2026年10月29日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔届ける

決算補足説明資料の内容をより詳しくご理解いただくため、「決算補足説明資料(説明文章付き)」を当社ホームページに掲載しております。

中間期業績ハイライト	・・・P3
事業成長を示す指標	・・・P4
中間期決算概要	・・・P5～
通期業績予想	・・・P12
トピックス	・・・P13～

中間期業績ハイライト

畜産飼料事業が牽引し増収増益。中間期として過去最高益を更新

売上高

1,567億円

前年同期比

+10.1%

業績予想進捗率

49.4%

経常利益

45億円

前年同期比

+21.2%

業績予想進捗率

51.2%

最終利益

32億円

前年同期比

+14.0%

業績予想進捗率

50.4%

売上高

- ・ 畜産飼料事業、水産飼料事業ともに販売数量が伸長
- ・ 畜産飼料、水産飼料ともに価格改定(値上げ)を実施

経常利益

- ・ 畜産飼料は差別化製品の拡販など、収益性を重視した販売戦略により大幅増益
- ・ 水産飼料は魚粉価格高騰の影響を受け大幅減益

最終利益

- ・ 経常利益の増加を背景に、最終利益も前年同期を上回る
- ・ 通期予想に対しても順調に進捗

畜産飼料事業の特性(P20参照)を踏まえ、「量から質(付加価値)」への転換を進め、トン当たり利益額の向上を目指す

経営課題

飼料産業は薄利多売の構造により、外部環境の変動が収益に直結しやすい

国内市場は横ばいで推移する中、販売数量の拡大や大量生産によるコスト競争力を追求するビジネスモデルは限界

事業モデル の転換

「数量拡大型」 → 「付加価値・ソリューション型」へ



高付加価値化

調達・製造の改革

- ・ 幼齢期飼料や暑熱対策飼料等の飼料性能の差が表れやすい製品の拡販
- ・ 生産成績向上に向けた飼養技術のソリューションの提案
- ・ 昆虫タンパク等の代替原料の活用
- ・ 製造品目削減や原料・製品在庫の最適化による製造コストの削減

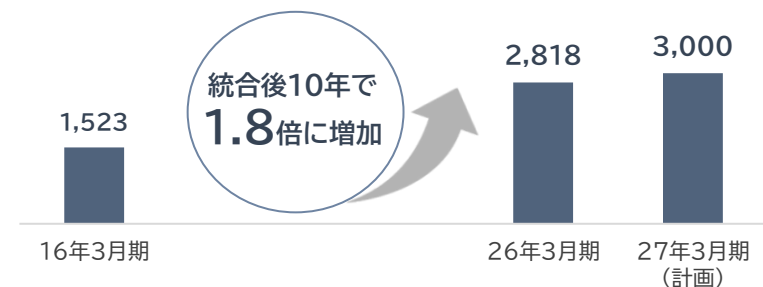
戦略転換 の成果

売上高利益率ではなく、

「トン当たり利益額」の向上を目指す

- ☑ 「量」から「質(付加価値)」への戦略転換の進捗を示す
- ☑ 価格改定により売上高が変動するため、売上高利益率では捉えにくい収益力を把握

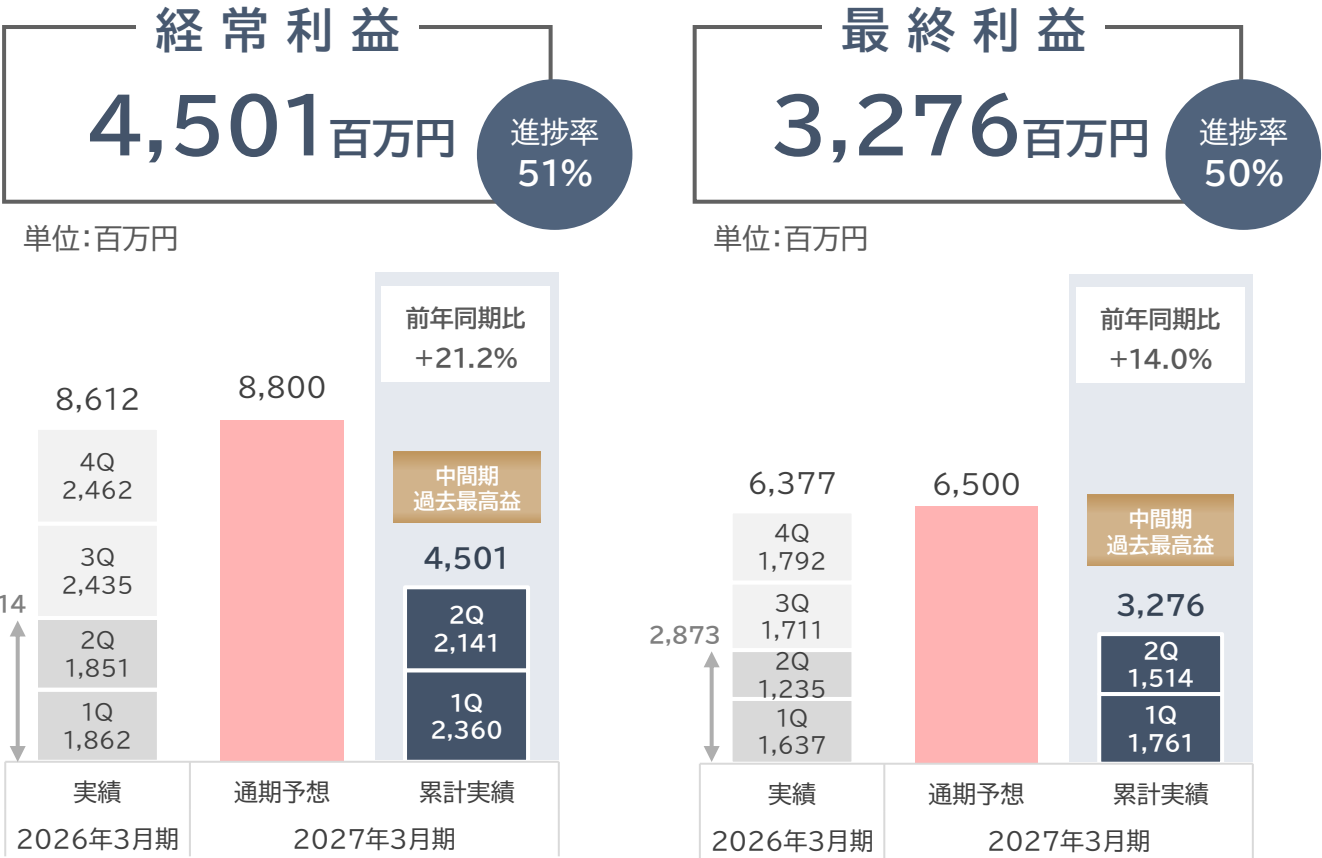
畜産飼料事業のトン当たり利益推移



各段階利益で過去最高益を更新。畜産飼料事業、食品事業の増益が水産飼料事業の減益をカバー

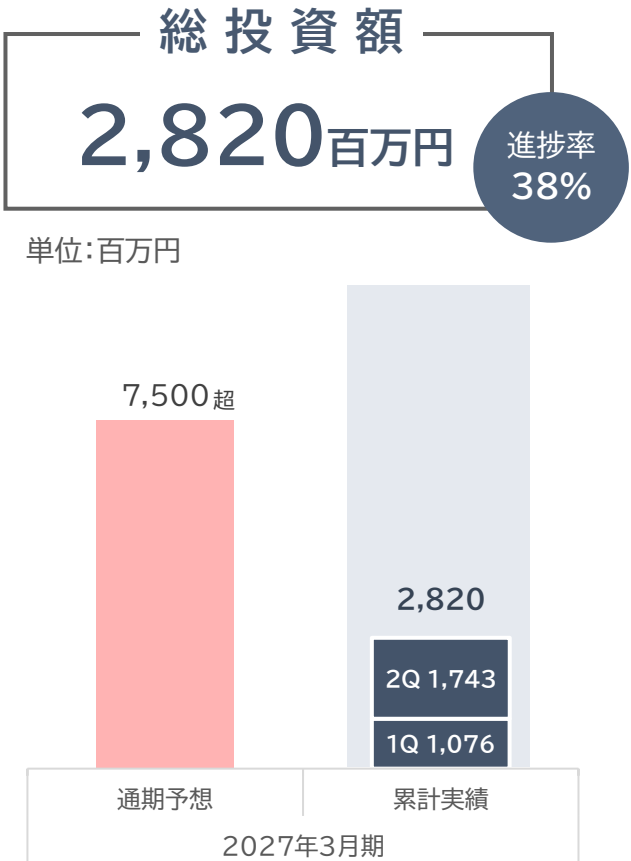
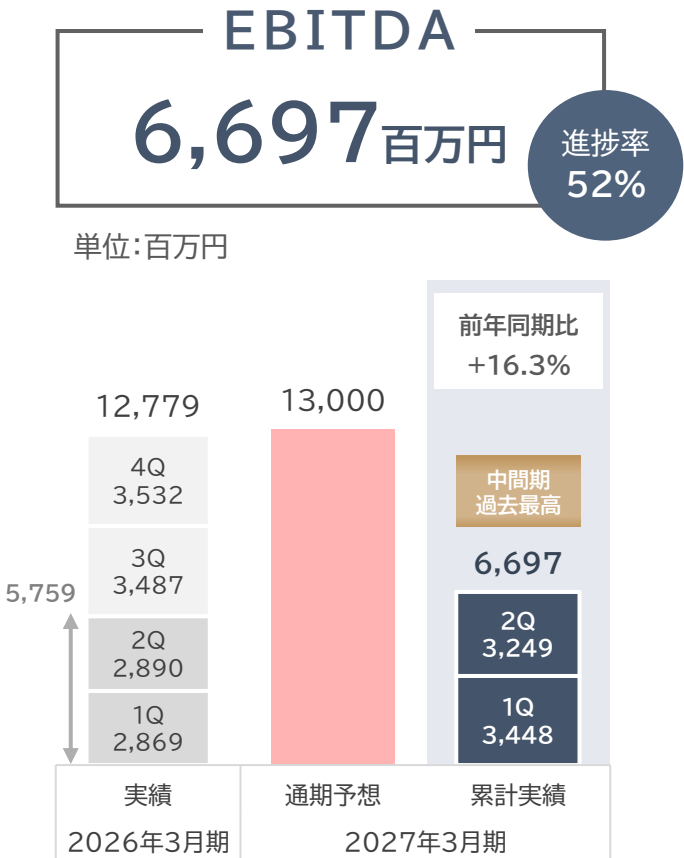
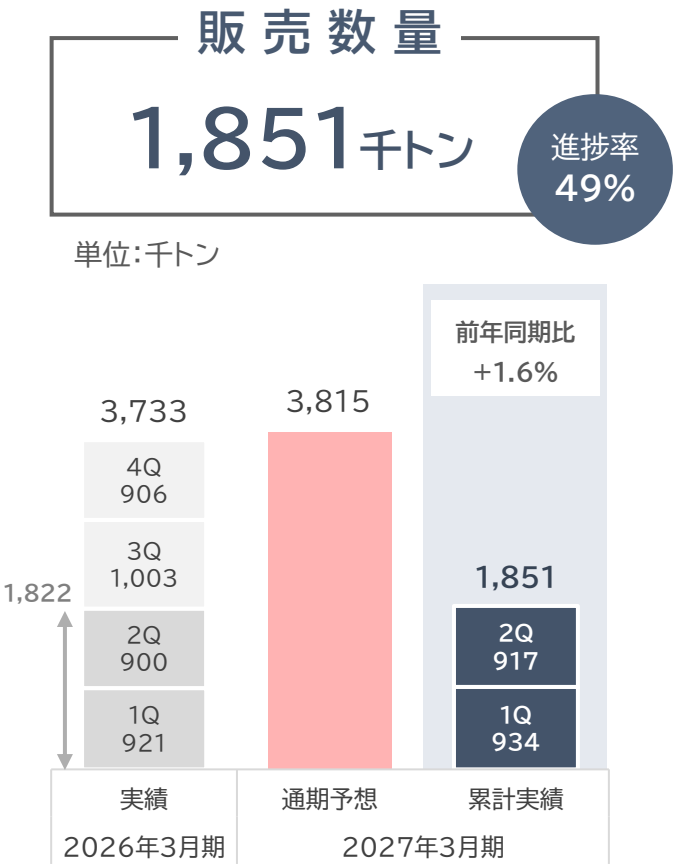
(百万円)

	2026.3期	2027.3期		
	2Q	2Q	前年同期比	通期予想 進捗率
売上高	142,344	156,709	+10.1%	49.4%
売上原価	126,357	139,288	+10.2%	—
売上総利益	15,987	17,421	+9.0%	49.2%
販管費	12,730	13,094	+2.9%	—
営業利益	3,257	4,326	+32.8%	50.9%
経常利益	3,714	4,501	+21.2%	51.2%
親会社株主に帰属 する中間純利益	2,873	3,276	+14.0%	50.4%



経常利益・最終利益ともに通期予想に対して順調に進捗

販売数量は畜産・水産飼料ともに増加。EBITDAは畜産飼料事業と食品事業の増益が牽引



畜産飼料、水産飼料ともに前年同期比増

畜産飼料事業における収益性改善を主因に増加。
減価償却費は前年同期比+144百万円

計画に遅延なく進捗

※EBITDA: 経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

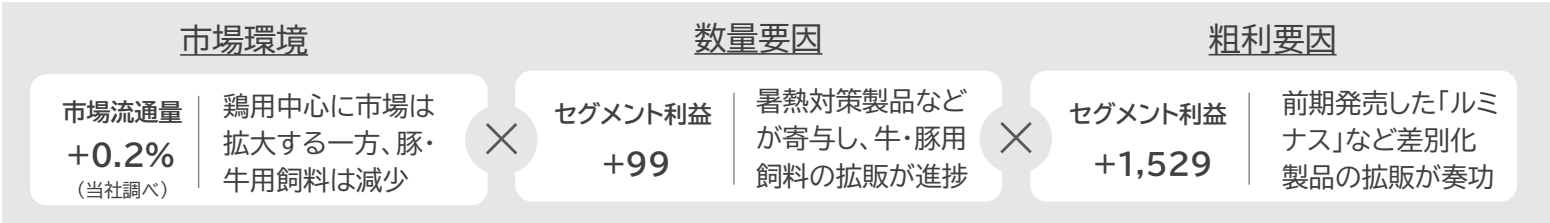
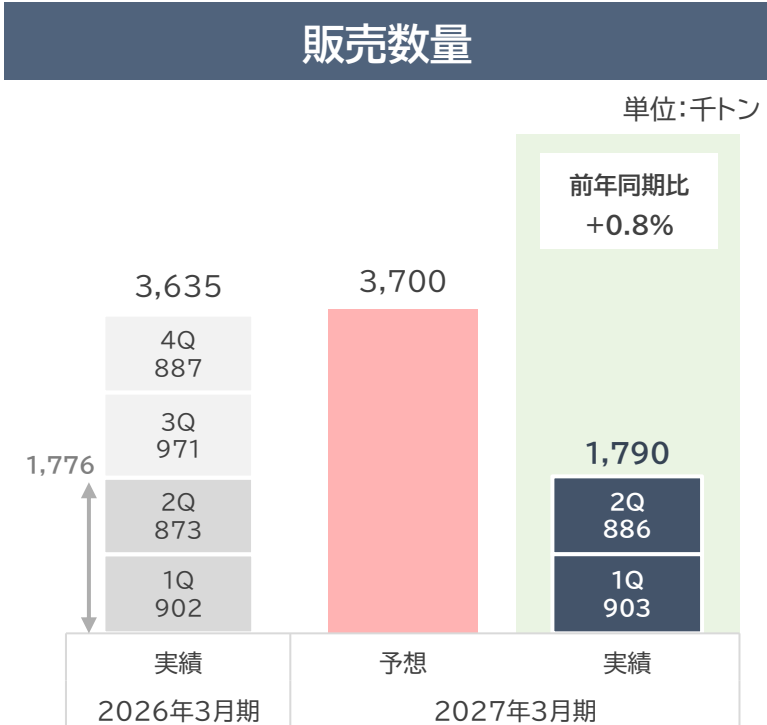
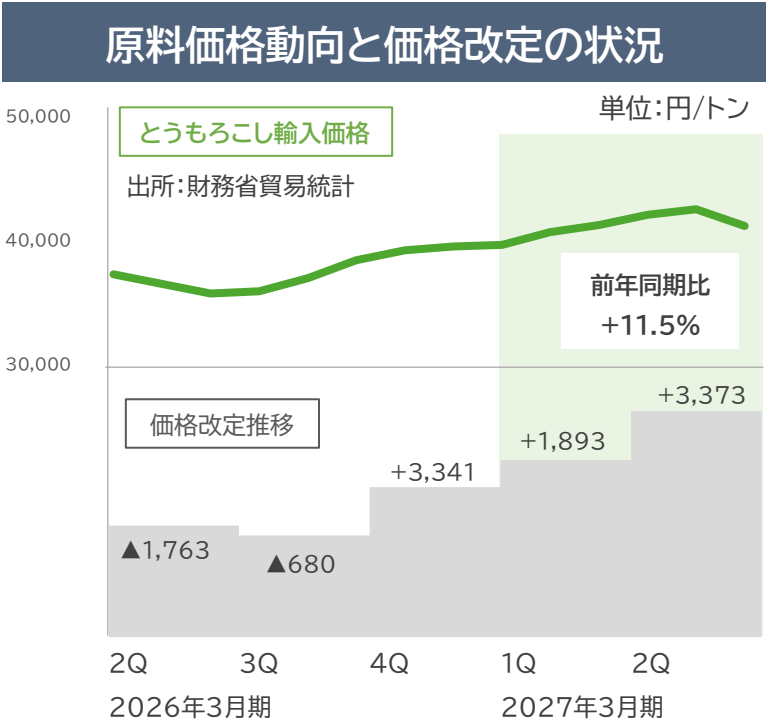
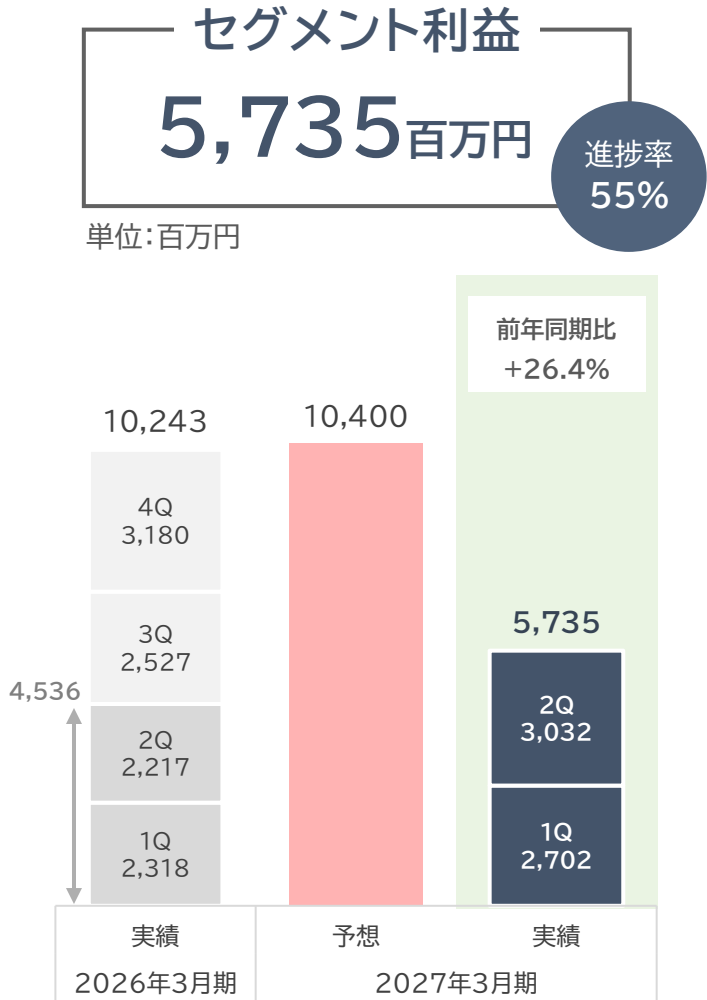
畜産飼料事業と食品事業の増益が水産飼料事業の減益をカバー

(百万円)

セグメント		2026年3月期	2027年3月期		
		2Q	2Q	増減額	前年同期比
畜産飼料事業	売上高	109,487	119,831	+10,344	+9.4%
	セグメント利益	4,536	5,735	+1,199	+26.4%
	EBITDA	5,882	7,188	+1,306	+22.2%
水産飼料事業	売上高	11,811	15,990	+4,178	+35.4%
	セグメント利益	669	176	▲492	▲73.6%
	EBITDA	953	483	▲469	▲49.3%
食品事業	売上高	21,039	20,883	▲156	▲0.7%
	セグメント利益	55	169	+113	+203.7%
	EBITDA	173	286	+113	+65.3%
その他/調整額	売上高	6	3	▲2	▲40.8%
	セグメント利益	▲1,546	▲1,580	▲33	—

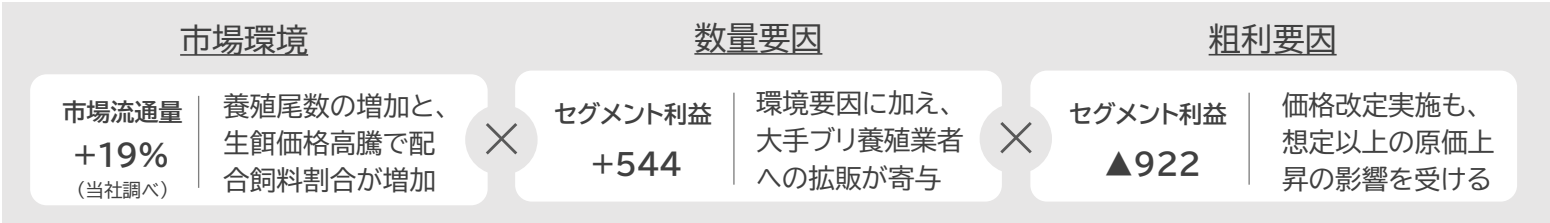
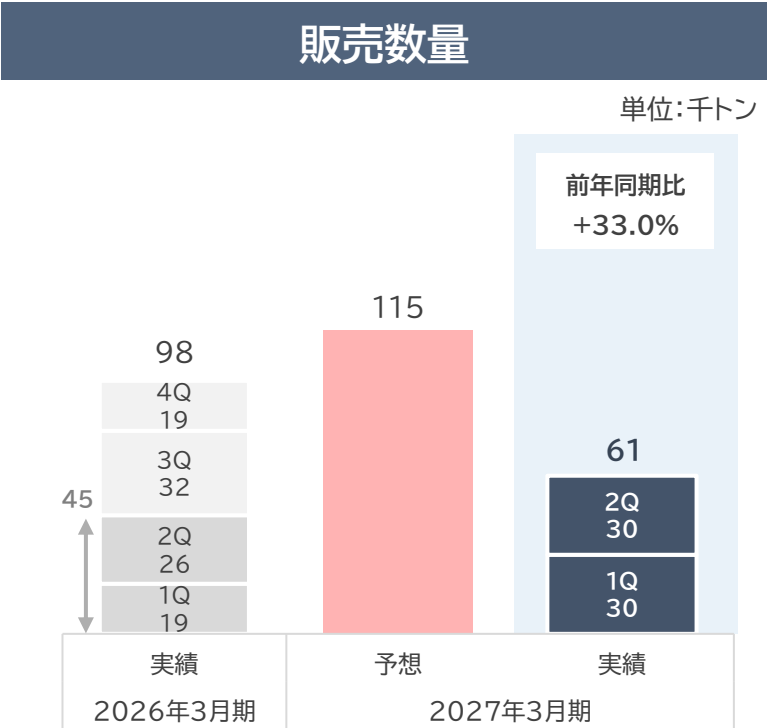
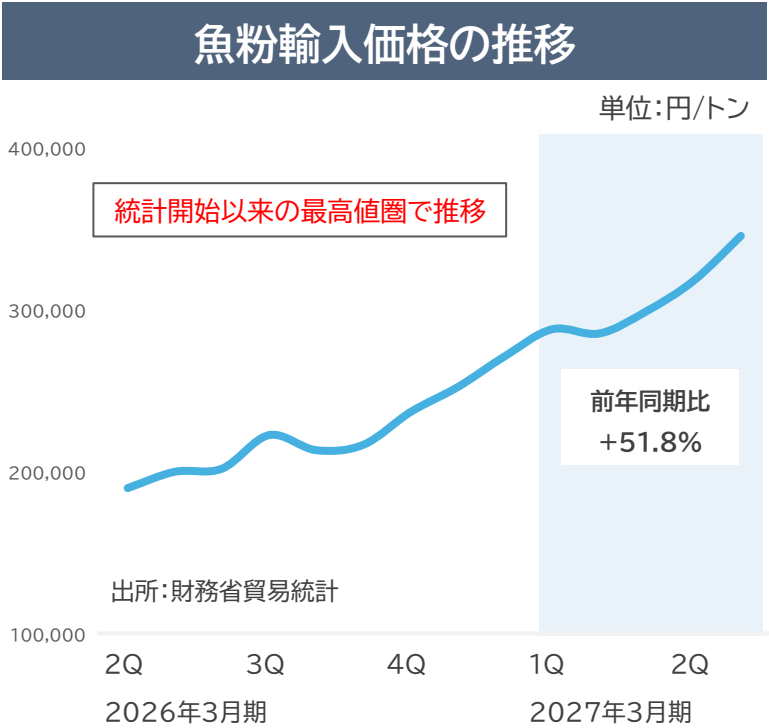
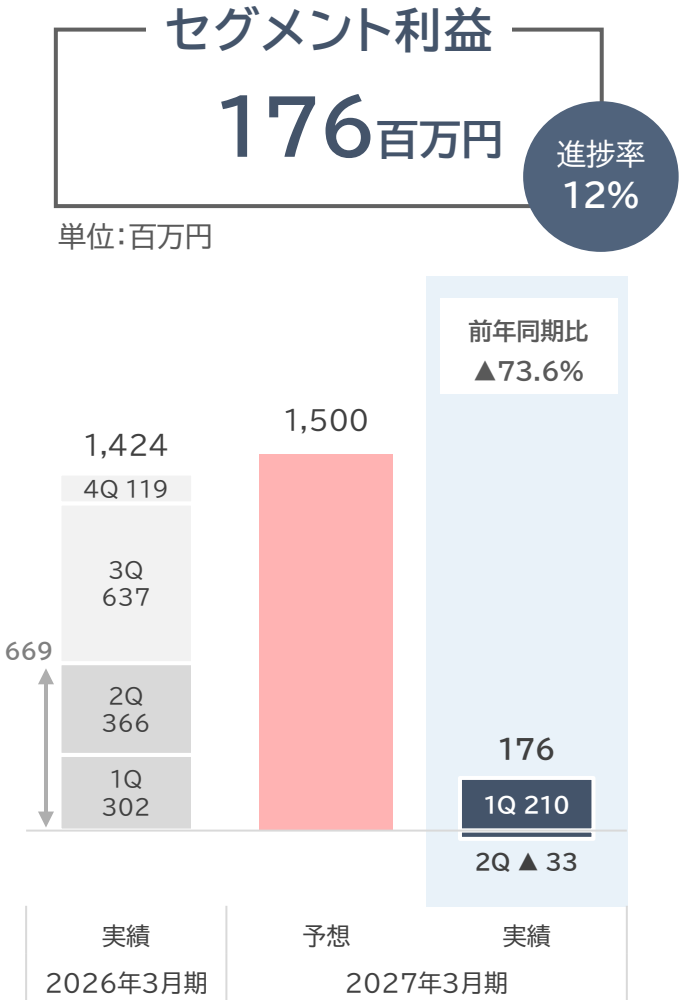
※セグメント利益:経常利益ベース
※EBITDA:経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費
※その他=海外事業及び不動産賃貸事業等、調整額=報告セグメントに含まれない損益

差別化製品の拡販など、収益性を重視した販売戦略の浸透が進み増益



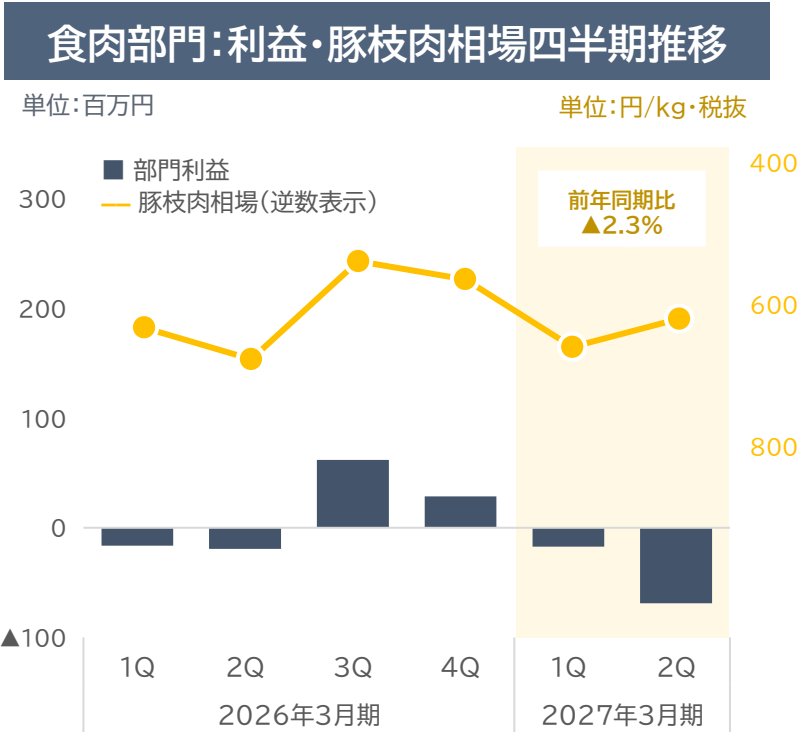
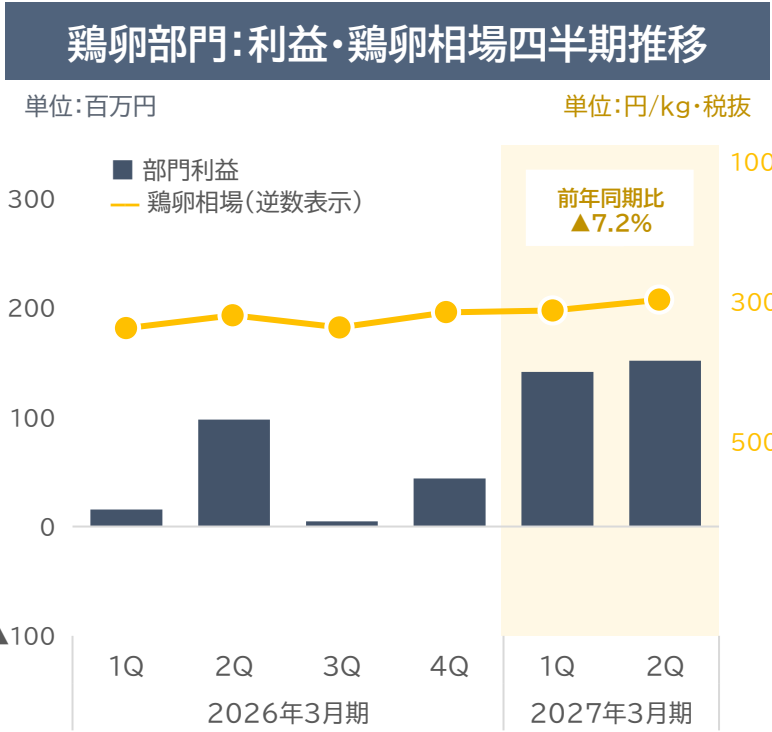
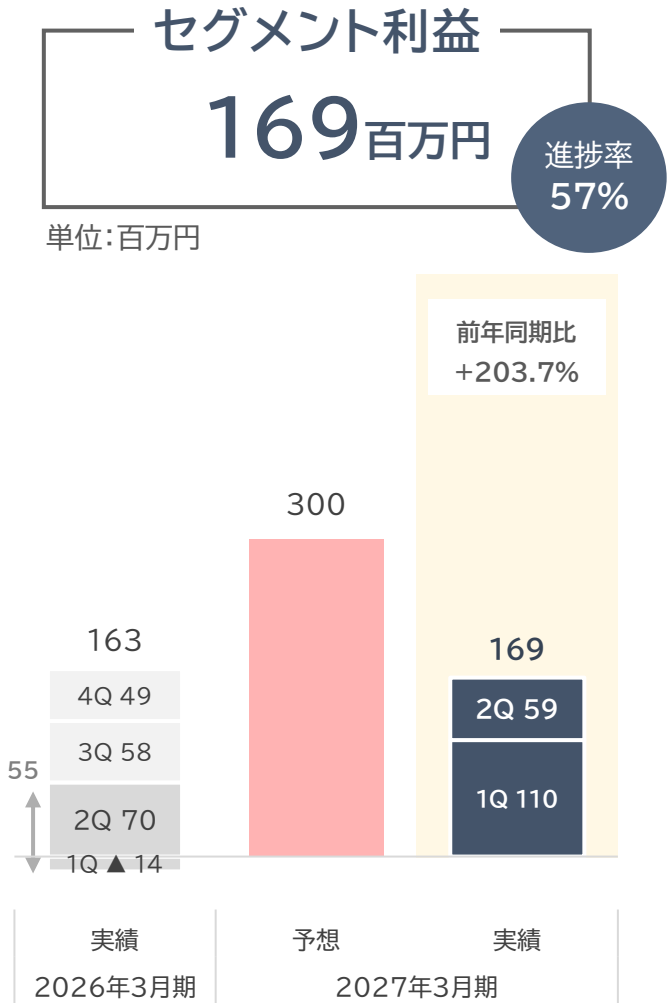
※セグメント利益増減要因には記載項目以外の影響も含まれるため、差額と一致しません

想定以上の魚粉価格高騰により大幅減益も、値上げと魚粉代替製品への切り替えを進め、下期回復を目指す



※セグメント利益増減要因には記載項目以外の影響も含まれるため、差額と一致しません

食肉部門は減益も、鶏卵部門の販売数量拡大や価格条件見直しによる粗利改善が寄与し、食品事業全体では大幅増益



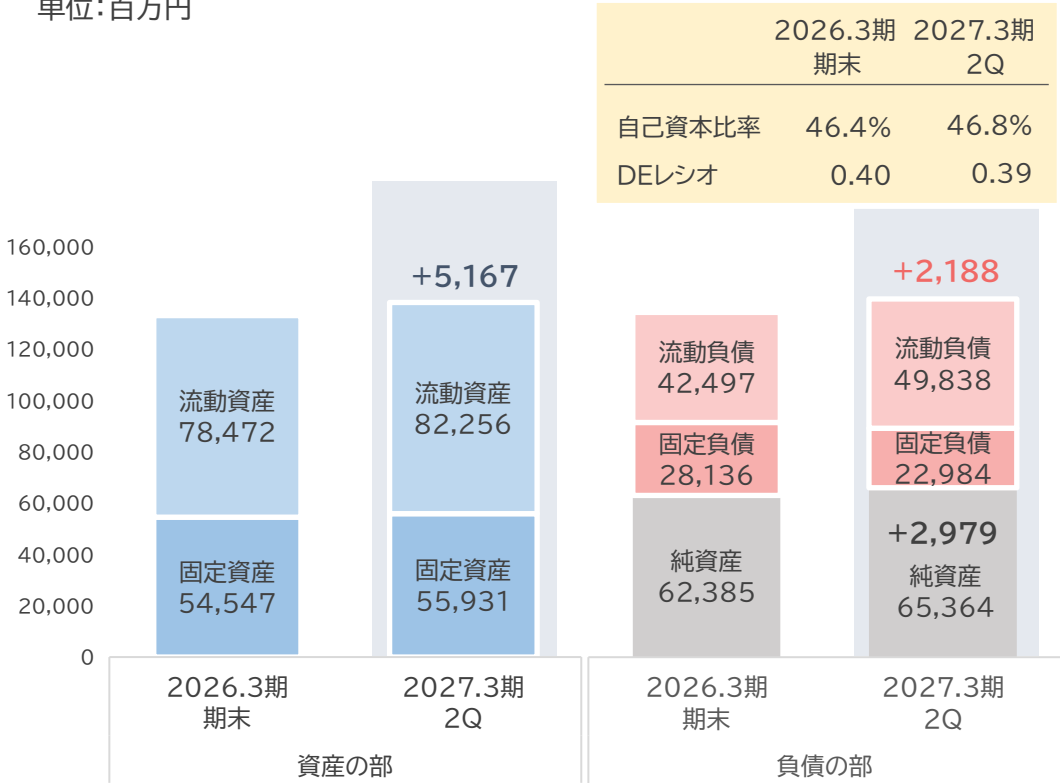
鶏卵部門		食肉部門	
セグメント利益 +162	価格条件の見直しに加え、味付けたまご「マジックパール」の販売数量が過去最高を更新し増益	セグメント利益 ▲49	8月上旬まで相場の上昇基調が続き、仕入原価上昇分の価格転嫁が遅れたことで損失を計上

※セグメント利益増減要因には記載項目以外の影響も含まれるため、差額と一致しません

運転資金の増加が営業CFの押し下げ要因となるも、財務健全性は維持

連結貸借対照表

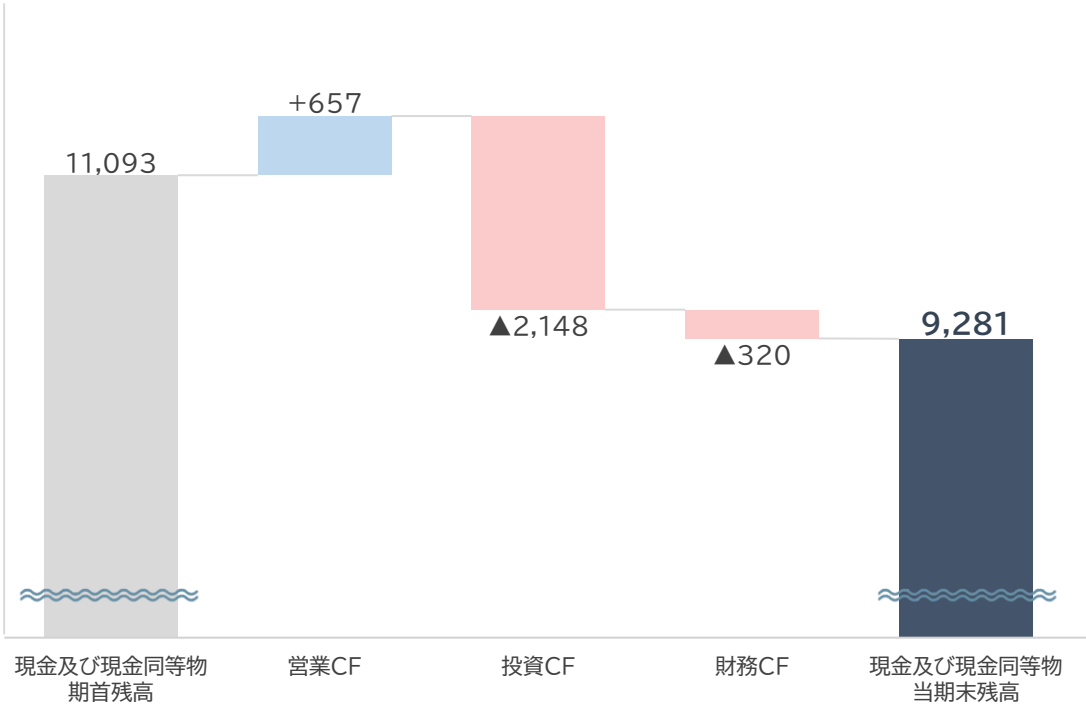
単位:百万円



連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

増加 減少



売上高増加に伴い運転資金が増加

※自己資本比率=自己資本/総資産 ※DELシオ=有利子負債/自己資本



運転資金の増加が営業CFを押し下げ（前年同期比影響：▲5,533百万円）

現時点で概ね想定どおりに進捗しており、業績予想に変更はありません

(百万円)

	2027年3月期				
	期初予想 (5月8日開示)	2Q		直近予想 (10月29日開示)	期初予想比
		実績	進捗率		
売上高	317,000	156,709	49.4%	317,000	-
売上原価	281,600	139,288	-	281,600	-
売上総利益	35,400	17,421	49.2%	35,400	-
販管費	26,900	13,094	-	26,900	-
営業利益	8,500	4,326	50.9%	8,500	-
経常利益	8,800	4,501	51.2%	8,800	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,500	3,276	50.4%	6,500	-

下期予測



上期に引き続き畜産飼料事業が全社業績を底支え。水産飼料事業は価格改定と魚粉代替製品の拡販により収益回復を図る

畜産飼料事業



市場：とうもろこし相場は9月をピークに、足元は軟調に推移
利益：価格改定により、原料価格変動の損益影響は限定的。
引き続き差別化製品の拡販に注力

水産飼料事業



市場：魚粉の高騰は落ち着くも、引き続き高値圏で推移
利益：価格改定浸透と魚粉代替製品の拡販により、収益性の回復を図る

食品事業



市場：家畜疾病リスクはあるも、相場は安定的に推移
利益：食肉部門の黒字化を進め、通期業績予想の達成を図る

[トピック]株主・投資家との対話強化に向けた主なIR活動

株主・投資家との接点拡大と情報発信の強化を通じ、当社への理解・関心の向上を図ってまいりました

日経・東証IRフェアへ参加



個人投資家向けIRフェアに参加し、社長より当社の事業・成長戦略についてお話ししました。

会社紹介動画の制作・公開



[会社紹介動画を見る](#)

当社の事業、強み、成長戦略を当社役員・社員が出演し、分かりやすく説明しております。

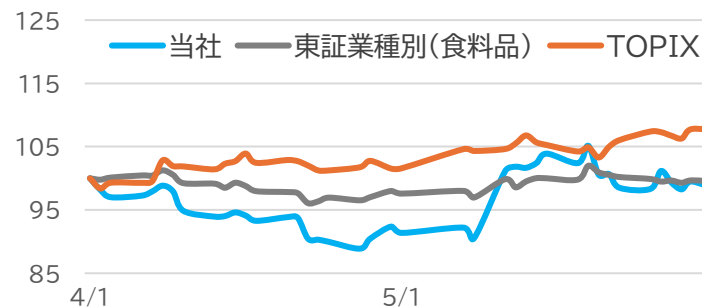
中間期の状況

株価
(9月末終値) **1,442円** 4/1対比 +236円

時価総額
(9月末) **555億円** 4/1対比 +91億円

IR面談数
(上期累計) **23件** 前年同期比 +14件

株価騰落率推移



騰落率

+19.6%

+11.9%

+5.8%

[トピック] ウナギ用無魚粉飼料の開発

業界初のウナギ用無魚粉配合飼料を開発、テレビ・新聞など各種メディアで紹介いただきました

業界初※ ウナギ用無魚粉飼料 神威ZERO を開発

ウナギ用飼料は魚粉を約70%配合するため、魚粉価格高騰の影響を受けやすく、近年の飼養コスト上昇に加え、ウナギの販売価格低下が養鰻経営を圧迫しています。当社は、業界で初めて魚粉を一切使用せず、ウナギ用配合飼料として必要な摂餌性・保形性を確保した飼料を開発しました。

※当社調べ(2026年10月時点)。国内で販売されるウナギ用配合飼料を対象。

主な掲載メディア



日本経済新聞

(2026年10月13日掲載)

魚粉高騰に関する記事にて当社のウナギ用無魚粉飼料の開発が取り上げられました。



水産経済新聞

(2026年10月19日掲載)

業界初のウナギ用無魚粉飼料を中心に、当社の魚粉代替への取り組みが紹介されました。



テレビ朝日 グッド！モーニング

(2026年10月16日放送)

ウナギの安定供給に向けた取り組みとして当社の無魚粉飼料が紹介され、水産飼料部長が出演しました。



アーカイブ動画はこちら

11月17日の中間期決算説明会で当該取り組みについてご説明します

參考資料



会社概要

会 社 名		フィード・ワン株式会社
所 在 地		神奈川県横浜市西区みなとみらい五丁目1番2号
代 表		庄司 英洋
設 立		2014年10月1日
資 本 金		100億円
従 業 員		935名（2026年3月31日現在／連結）
筆 頭 株 主		三井物産株式会社（持株比率／25.6%）
事 業		配合飼料の製造・販売、畜水産物の仕入・販売・生産・加工等 上記に付帯関連するその他事業（農場の経営指導、家畜診療施設の運営等）



代表取締役社長

庄司 英洋

PURPOSE(企業理念)

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

配合飼料の製造・販売から農場・食品までを事業領域とし、日本の「おいしさのみなもと」を創造しています

子会社 16社

● 飼料販売会社

北海道フィードワン販売(株)
道北協同飼料販売(株)
東北フィードワン販売(株)
関東フィードワン販売(株)
北九州フィードワン販売(株)
南九州フィードワン販売(株)

● 飼料製造会社

志布志飼料(株)

● 農場会社

(有)グリーンファームソーゴ
(株)第一原種農場
(株)南部ファーム

● 食品会社

マジックパール(株)
フィード・ワンフーズ(株)
(株)横浜ミート
ゴールドエッグ(株)

● その他

(有)いわき中央牧場
南洋漁業(株)

持分法適用会社 11社

● 飼料販売会社

(株)北海道サンフーズ

● 飼料製造会社

釧路飼料(株)
仙台飼料(株)
鹿島飼料(株)
平成飼料(株)
八代飼料(株)
マルイ飼料(株)

● 農場会社

(株)美保野ポーク

● その他

KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED
NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED
門司港サイロ(株)

畜産飼料事業セグメント

水産飼料事業セグメント

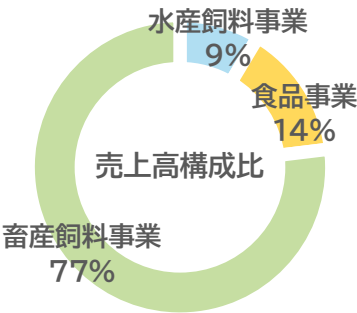
食品事業セグメント

その他セグメント

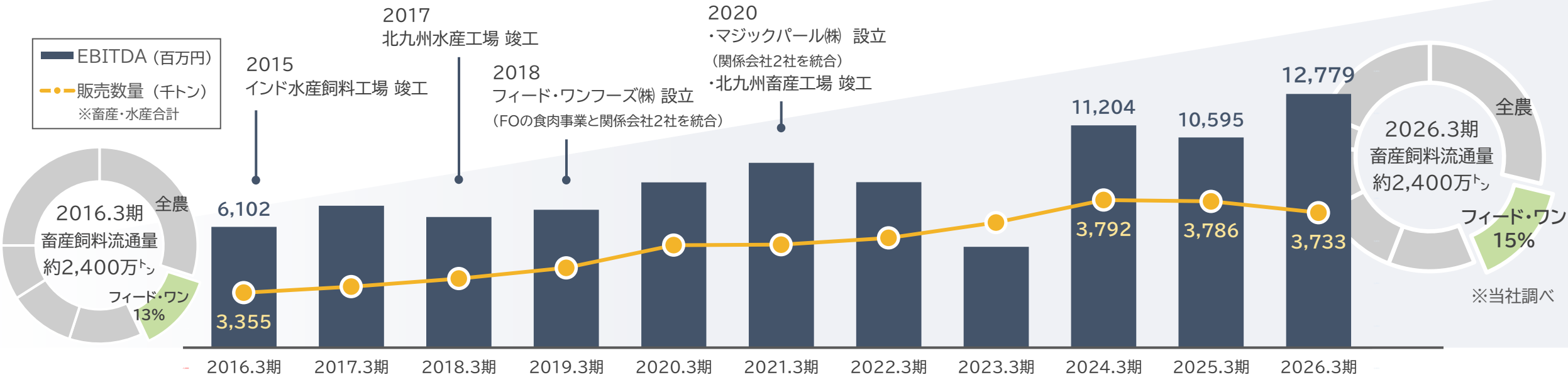
2026年3月期業績

売上高 **2,906**億円
経常利益 **86**億円

販売数量 **373**万ト
ROE **11.0**%



主力事業は畜産飼料であり売上高の約8割を占めています
水産飼料は約1割に留まりますが、市場規模の違い(畜産の約6分の1)に起因しています



飼料の安定供給という使命のもと、社会の要請に応える製品を創出し、企業価値を向上します

第2フェーズ - 2025.3~2034.3期 -

～継続的収益力の強化と生産体制の刷新・増強～

第1フェーズ 2016.3~2024.3期

統合による
事業基盤の確立

経営統合

EBITDA
61億円→112億円
(2016.3期) (2024.3期)
販売数量
336万ト→379万ト
(2016.3期) (2024.3期)

1stステージ 2025.3~2027.3期

EBITDA 115億円
ROE 8%以上
ROIC 6%以上
〔2027.3期
中期経営計画〕

2ndステージ 2028.3~2030.3期

3rdステージ 2031.3~2033.3期

2034.3期

畜産飼料市場シェア

販売数量 20%以上
EBITDA 160億円以上
ROE 10%以上
ROIC 8%以上

総投資額 約600億円
(2025.3~2030.3期)

総投資額 約800億円
(2025.3~2034.3期)

収益構造はコア事業である畜産飼料事業の影響が大きく、売上高だけでは収益性を捉えにくい事業構造です

〔売上高〕 輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し

- 畜産飼料は四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われます
- 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため、実質的な収益力を捉えにくい特徴があります

〔売上原価〕 売上原価の大半を原料費が占める

- 配合飼料の売上原価の大半を原料費が占めています
- 原料費の8割以上が輸入原料となるため輸入原料の価格変動は売上原価に直結します

〔販管費〕 配合飼料価格安定制度積立金を計上

- 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です
- 国、メーカー、生産者が基金を積み立てており、条件を満たした際に生産者に補填金が交付されます
- 積立金は税務上損金算入が認められ、2026年3月期は約65億円を販管費に計上しました

売上高

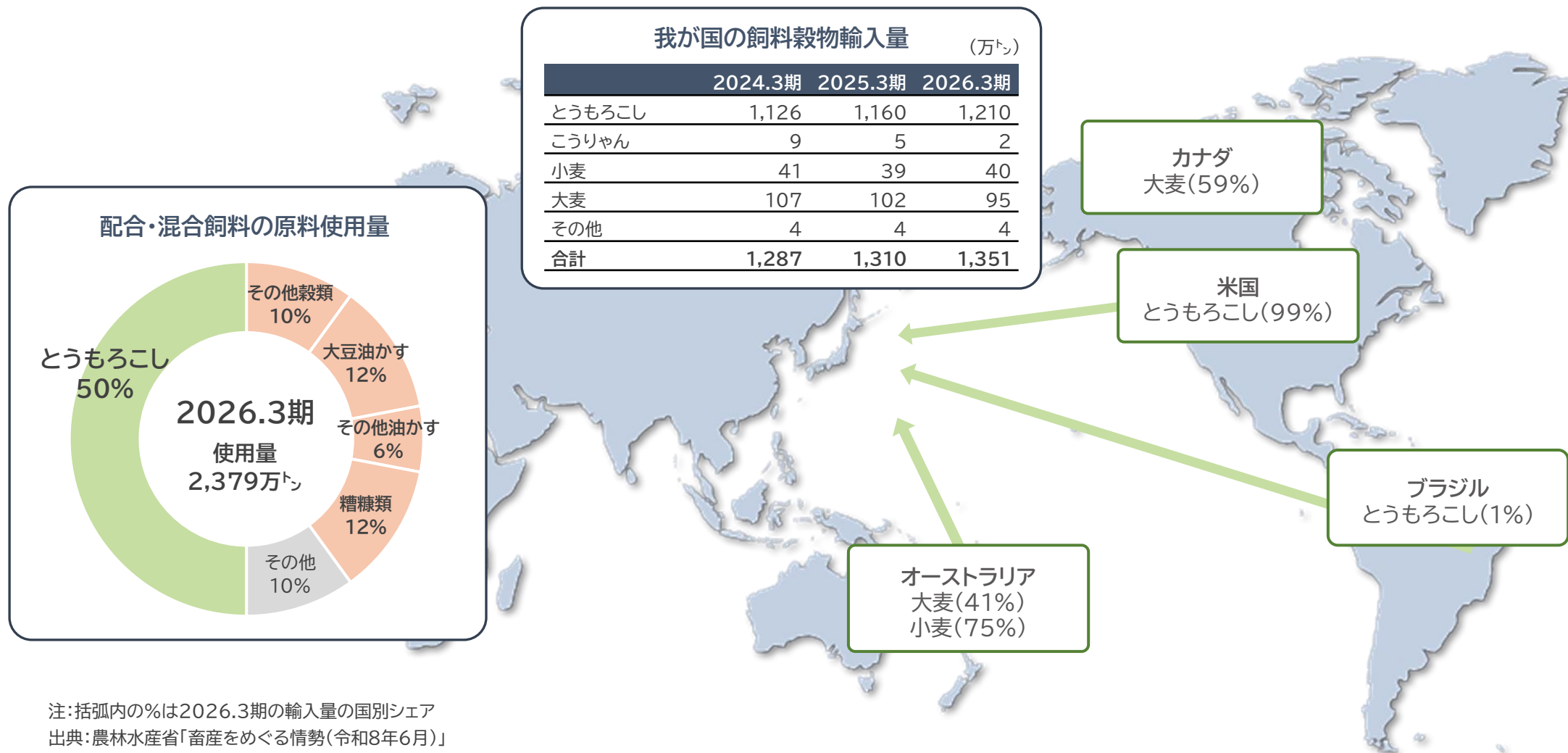
売上原価

販管費

営業利益

畜産飼料事業は輸入原料の価格変動に応じ販売価格の改定を行うため、一時的な変動はあるものの、利益は比較的安定しています

飼料穀物のほとんどは輸入に依存しており、特に、米国・オーストラリアに大きく依存しています

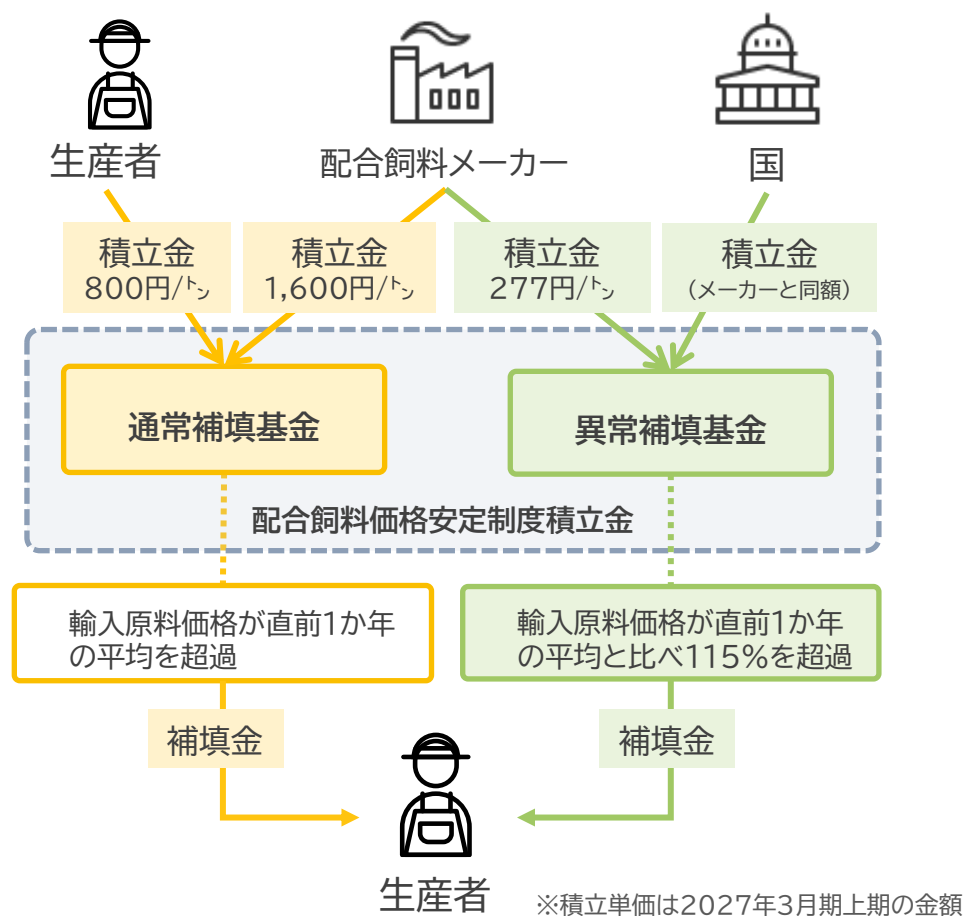


輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です（※畜産飼料のみ）



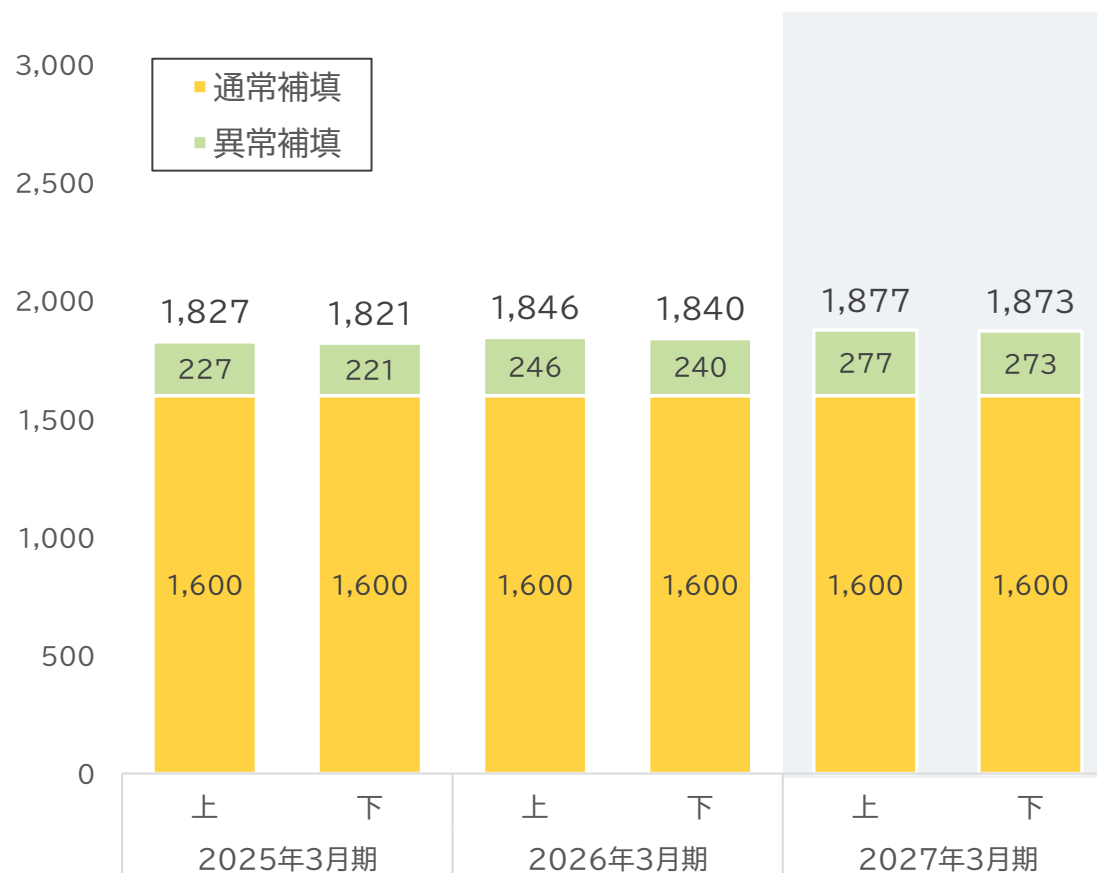
詳しくはこちら

〔 制度の仕組み 〕

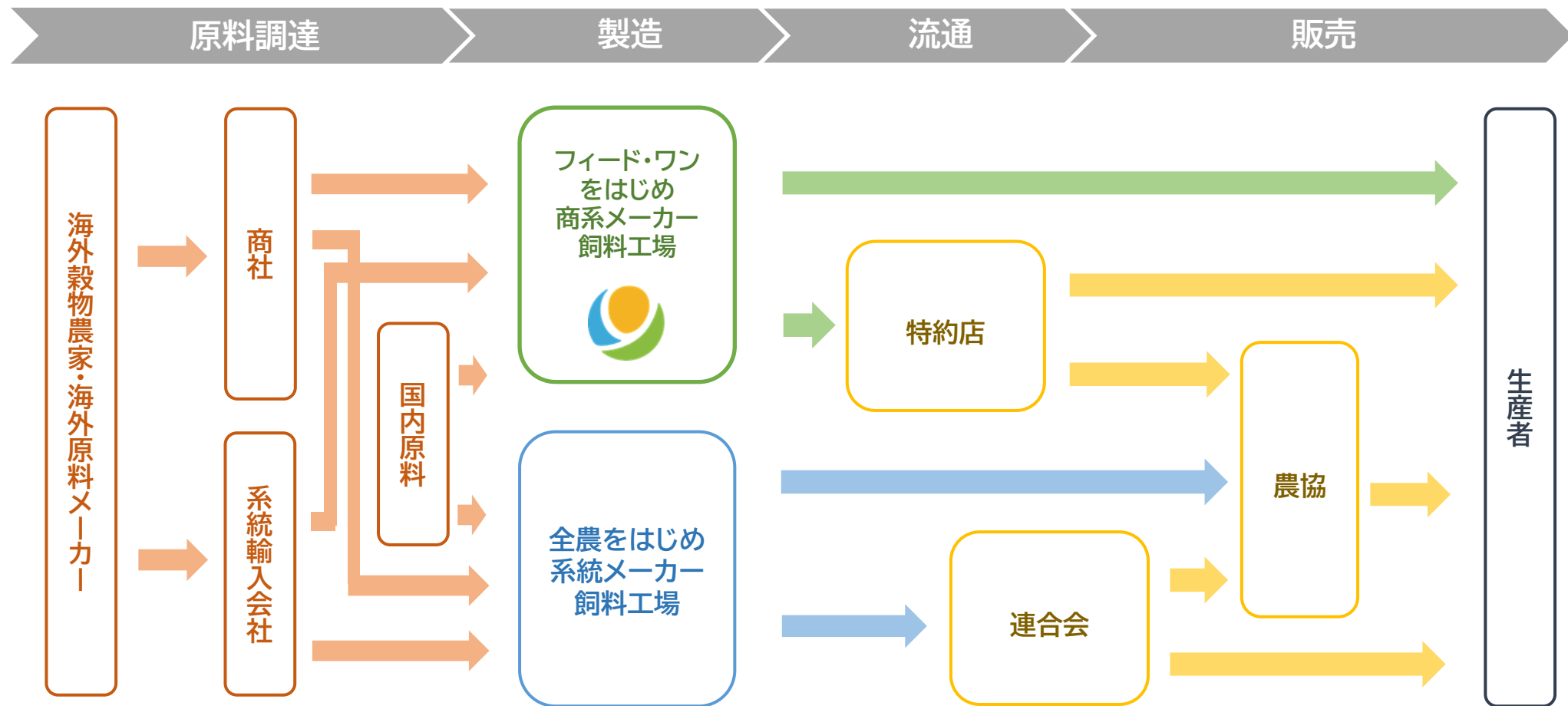


〔 積立金(配合飼料メーカー) 〕

単位:円/ト



飼料工場から生産者までの商流には、「メーカー直販」「特約店経由」「農協経由」等があります



フィード・ワン
IR情報 トップ



<https://www.feed-one.co.jp/ir/>

フィード・ワン
統合報告書2026



https://www.feed-one.co.jp/ir/integrated_report/

フィード・ワン
企業調査レポート



https://www.feed-one.co.jp/ir/sponsored_research_report/

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おきください

<IRに関するお問い合わせ>

おいしさのみなもと



財務経理部 IR・財務企画課

E-mail : ir@feed-one.co.jp

Webサイト : <https://www.feed-one.co.jp/>

